GAOT
Gunma Association of Occupational Therapists

一般社団法人

群馬県作業療法士会ニュース

からっ風通信

第165号
2026年7月発行

Contents

- 巻頭言 …… 2
- 特集記事 …… 3〜4
- アンケートへのご協力をお願いします …… 5
- リレーフォーライフに参加しませんか？ …… 6
- 県士会ニュース表紙イラスト募集 …… 7
- 議事録 …… 8〜11
- 施設紹介：サンピエール病院 …… 12
- 40周年記念事業がスタートします …… 13
- 40周年記念事業特別掲載「それでも、つながっている」…… 14〜15
- 編集後記 …… 16

巻頭言

第28回群馬県作業療法学会開催に向けて鋭意準備中

第28回群馬県作業療法学会
実行委員長　山浦卓哉

日頃より群馬県作業療法士会の活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

このたび、第28回群馬県作業療法学会の実行委員長を務めることになりました。実行委員長を務めるのは人生で2度目となりますが、今回もワクワク、ドキドキ、そして少しソワソワしています。現在、学会長や実行委員、学術部の皆様とともに、「参加して良かった！」と思っていただける学会を目指して鋭意準備中です。

本学会では、学会長講演、基調講演、市民公開講座、演題発表（口述、ポスター）、セミナー、ワークショップ、企業展示、交流会と多くのプログラムを予定しています。

吉岡学会長は発達分野の作業療法を専門としていることに加えて、人と人とのつながりをとても大切にする方ですので、少し肩の力を抜いて参加できる、温かい雰囲気の学会になるのではないかと思っています。会場でお揃いの服を着た実行委員の姿が見られるかもしれません。また、当初は「お酒を飲みながら語り合える学会にしたい」という案もありましたが、さすがに叶いませんでした（泣）。しかし、そのくらい参加者同士が気軽に交流できる学会にしたいという思いは、今も変わっていません。そして、ぜひ皆様には学会テーマを思い浮かべながらご参加いただきたいと思っています。

本学会のメインテーマは、**『架け橋』**です。

「架け橋」という言葉から、皆様はどのようなことを思い浮かべるでしょうか。人と人とのつながり、地域とのつながり、多職種とのつながり、あるいは企業や教育機関とのつながりなど、様々なイメージがあると思います。

私自身、「人と人を結び、新しい出会いや可能性を生み出すもの」というイメージを浮かべました。そう考えると、作業療法士という職業そのものが「架け橋」なのかもしれません。今回の学会も、そんな新たな関係性が生まれる場になれば嬉しく思います。

さて、本学会における私の目標参加者数は、**400名！！**です。

多くの方々にご参加いただくことで、新たなつながりが生まれ、群馬県作業療法士会、そして群馬県の作業療法のさらなる発展につながるものと期待しています。

9月27日、群馬パース大学で皆様とお会いできることを、実行委員一同心より楽しみにしております。ぜひお気軽にご参加ください！

学会HP　　学会Instagram　　学会Facebook

特集1　「地域包括ケアフェスティバル」に参加して

榛名荘病院　土岐新太（県士会広報部）

2025年11月22日に高崎市総合保険センターで行われた「地域包括フェスティバルinたかさき」に県士会ブースを出展させていただきました。このイベントは高齢になっても健康で安心して住み慣れた地域で生活することができるよう、介護予防や在宅医療、介護連携推進事業等について一般市民の方に周知を図り、関心を高めることを目的として開催されています。以前から高崎市を中心に「医療介護連携フェスティバルin高崎」として開催され、県士会でもブース等の出展をさせていただいていましが、「地域包括ケアフェスティバルinたかさき」と名称が変わり2025年度も開催されました。

県内の医師会や看護協会、介護支援専門員協会や栄養士会等の医療・介護にかかわる専門職団体や企業がそれぞれのブースを出展しており、また認知症サポーター養成講座や医師による講演会も開催され、300名を超える方が参加されました。

県士会でも「作業療法士は、生活に寄り添うリハビリのプロです」というテーマを掲げ、自助具を使用した水書道体験や小さい子供さんでも楽しめるような宝さがしコーナー、フレイルチェック等を実施しました。

自助具の箸やスプーンを利用して砂の中に埋められた宝さがしをしてもらったり、把持しやすい筆を使用して繰り返し実施できる水書道を体験していただいたり、小さい子供さんからご年配の方まで楽しんで参加していただけていたと思います。またフレイルチェックについてもお話しながら質問項目をお伺いしたのですが、皆さん熱心にお話を聞いてくださり、介護予防に関する関心の高さも感じることができました。その中でOT紹介をさせていただいたり、リーフレットやノベルティグッズ配布を通して、OTの啓発活動の一環にもなったのではないかと思います。

作業療法について一般の方に知っていただく為の活動としてこういったイベント等で、実際に一人ひとりの方と触れ合いながらの啓発活動の大切さも感じることができました。今後もこういった機会も活用しながら、OTの啓発活動を実施していきたいと思います。

特集2　第27回日本認知症ケア学会大会に参加して

はるな生活協同組合　高崎中央病院　白倉研吾

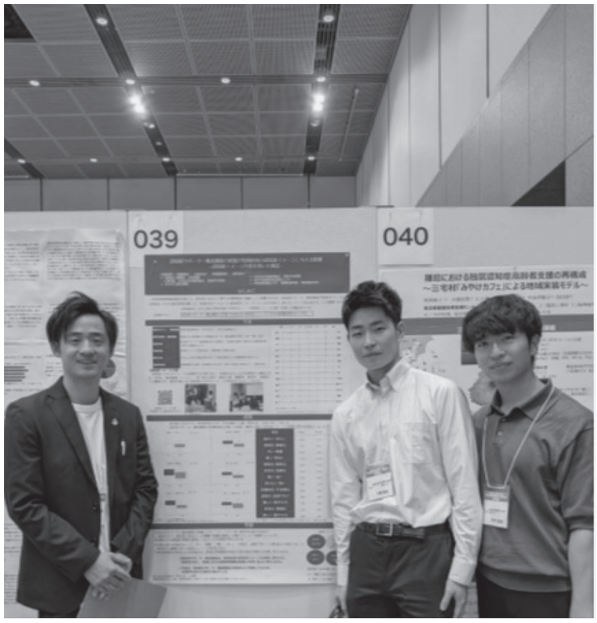
学会では、「新しい認知症観」や「診断後支援」をテーマとした講演を聴講するとともに、「認知症サポーター養成講座の実施が地域住民の認知症イメージに与える影響―認知症イメージ尺度を用いた検証―」という演題でポスター発表を行いました。

講演では、「認知症になってもできることや役割がある」という視点が繰り返し語られていました。認知症のある人を一人の生活者として捉え、その人らしい暮らしを支えることの重要性を改めて学ぶことができました。

また、鹿児島大学の田平先生や京都橘大学の小川先生の講演では、生活障害を細かな工程に分けて分析し、残存能力を活かした支援につなげる実践も紹介されており、日々の臨床を振り返る良い機会となりました。「できないこと」を探すのではなく、「まだできること」を見つける視点は、作業療法士として大切にしたい考え方だと感じました。

ポスター発表では、多くの参加者の方に足を止めていただきました。質疑応答では、「講義だけでなく、認知症のある人との交流や動画視聴なども認知症イメージを変えるきっかけになるのではないか」といったご意見をいただき、様々な視点を得ることができました。

学会に参加すると、最新の知見に触れられるだけでなく、自分の研究や実践について多職種の方から意見をいただけることも大きな魅力です。今回の学びや気づきを今後の臨床や地域活動に活かしていきたいと思います。



研究発表だけでなく、全国で活躍する研究者との交流も学会の醍醐味です。
認知症介護研究・研修センターの川端敦史氏、
月井直哉氏とともに
（写真掲載についてはご本人の許可をいただいています）

「多世代企画サポート室」が発足、
アンケートへのご協力をお願いします!

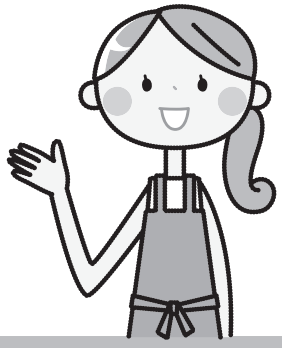
平素より県士会の活動にご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございます。
今年度より、事務局傘下の多世代企画サポート室（旧：県士会を楽しくする部）が発足いたしました。多世代企画サポート室では、「様々な世代の方が、無理なく楽しく県士会に参加できること」を目的に、今後の企画や活動を検討しております。
年齢や経験年数、ライフステージの違いに関わらず、誰もが参加しやすく、魅力を感じられる場づくりを目指しています。

その為、会員の皆さまのご意見やニーズを把握し、より良い企画提案に繋げることを目的として、「多世代が楽しく参加できる県士会づくりアンケート」を実施することといたしました。

日頃感じていることや、こんな企画があれば参加したい!といった率直なご意見をお聞かせ頂けますと幸いです。ご回答頂いた内容は、今後の企画検討の参考として大切に活用させて頂きます。

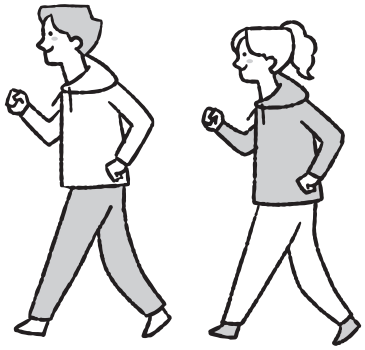
ご多用のところ恐れ入りますが、趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

【回答はこちら】
https://forms.gle/xF6mTvWZgk81rNZq8



リレー・フォー・ライフ（RFL）に参加しませんか？

がんと闘う人のために、一緒に参加しませんか？



RFLとは、がん患者さんやそのご家族を支援し、
地域全体でがんと向き合い、がん征圧を目指すチャリティ活動です。
昨年度のRFLでは群馬県理学療法士協会含め、多くの職能団体、
病院や企業が参加しています。

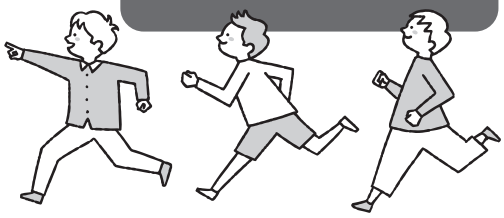
今年度も群馬県作業療法士会もRFLのリレーイベントに参加します。
リレーイベントでは、参加者は交代で歩きます。
そのため、群馬県作業療法士会の皆様も参加できる時間帯に参加してみませんか？
日中は様々な団体がチャリティーイベントを行っており、家族と一緒に参加しても楽しめます。
日頃の運動不足な方でも1時間の参加も可能ですので参加できるので安心してください。

こんな人におすすめ
「チャリティを通じてがん患者さんやご家族への支援に貢献したい」
「県内の作業療法士との関わりを持ちたい」
「屋外を歩く運動機会を持ち気分転換を図りたい」
「様々な団体の催し物を楽しみたい」

日　時：22026年 10月10日(土)14:00～10月11日(日)10:00
会　場：ALSOKぐんま総合スポーツセンターふれあいグラウンド
（群馬県前橋市関根町800）

登録先はこちら
期限：10月2日（金）まで

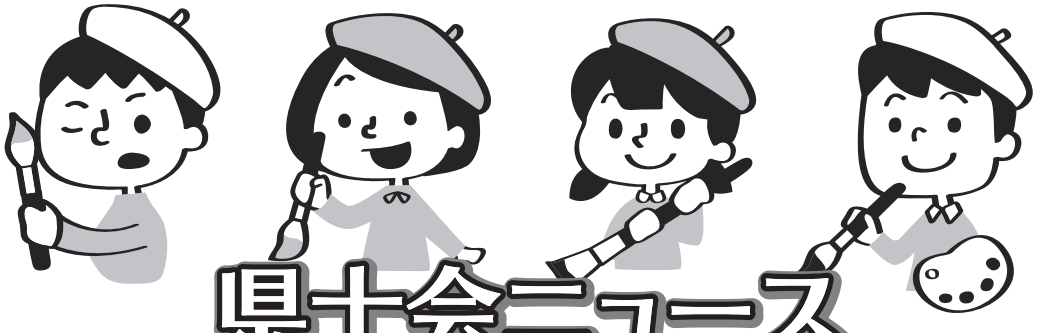
Google Formから事前登録していただけると、
会場における傷害保険の対象となりますので、
登録お願い致します。皆様のご参加よろしくお願いします。



なお、当日参加も可能です。
会場内の群馬県作業療法士会の
テントまでお越し下さい。

気になりましたら、気軽に以下のメールに
お問い合わせください。

問い合わせ先：篠塚病院　設楽俊史
アドレス：toshifumi.amuse@gmail.com



県士会ニュース
表紙イラスト募集!

あなたの描いたイラストが県士会ニュースの表紙になるチャンス!
作業療法士としての視点で捉えた
「群馬らしさ」あふれる表現をお待ちしています。

募集内容

◎県士会ニュースの表紙に使用するオリジナルイラスト
◎テーマ:「群馬に関連するイラスト」
◎手描き・デジタルどちらも可
◎縦向き(A4比率推奨)

応募方法

◎データ形式:PNG / JPEG / PDF
◎送付先:daxiezongya@gmail.com
◎件名:「表紙イラスト応募」
◎氏名・所属・連絡先を明記してください。

応募締切

2027年3月26日(金)まで

注意事項

◎応募作品はオリジナルに限ります。
◎公序良俗に反する内容は不可。
◎応募作品の著作権は作成者に帰属しますが、協会広報物への掲載・使用に同意いただいたものとみなします。
※選考の結果、表紙に選ばれない場合があります。

2026年度第1回　理事会

日　時：2026年5月21日(木)19:00～
会　場:WEB
参加者:新井、池田、石森、今村、小此木、勝野、木村、高坂、小林、設楽、柴田、都丸、中嶋、長谷川、柳井、山浦、山口、吉岡、李（50音）

【各部報告・審議事項】

1.新井会長

特になし

2.教育部

[担当:勝野・今村／報告者:教育部部長　今井卓也]

【報告事項】

メールで随時審議を実施。
4/30にリモート会議を実施。
1)令和8年度 現職者共通研修・選択研修・基礎ポイント研修
①現職者共通研修
現職者共通研修　「作業療法生涯教育概論」
　日時:令和8年7月2日 講師:松本OTR(沼田脳外)
　上記日程で研修会準備を進めている。
現職者共通研修　「事例検討」
　日時:令和8年7月19日
　会場:群馬医療福祉大学(対面開催)
※その他の現職者共通研修も今年度の講師から内諾を受けており、今後準備を進めていく。
②現職者選択研修
現職者選択研修　「身体障害領域」
　日時:未定　　開催方法:オンライン研修
　講師:小林OTR(群馬医療)、岩井OTR(藤総)、野口OTR(群大)、松井OTR(群中)
③基礎ポイント研修
　令和8年度も1～2コマの開催を予定している。
2)令和8年度 新人症例発表会
　日時:令和8年7月19日
　会場:群馬医療福祉大学(対面開催)
　統括:矢吹OTR(前橋日赤)
　各ブロック担当:北中毛→群馬医療(大塚OTR)　西毛→藤総(小林OTR)　東毛→療育センターきぼう(原澤OTR)
　発表者27名
　上記内容で研修会準備を進めていく。
3)その他
①令和8年度の体制について
　各ブロック長は5月末までに名簿を作成し、粕川G長へ提出する。

【審議事項】　なし

3.多世代企画サポート室[担当:勝野・中嶋、柳井、池田]

【報告事項】

1)県士会の公式Instagramについて
　運用中。フォロワー数260人以上を達成。投稿に関してのトラブル無し。広報部との連携を進める。部員募集のため福利厚生部と連携して部員募集のスライドを掲載する。
2)アンケートの作成と送付
　学会や研修のアンケートを作成した。「多世代が楽しく参加できる県士会づくりアンケート」に協力をお願いしたい。作成したアンケートは一斉メールでの送信と、機関誌の送付に合わせて同封する予定。
3)子育て世代向け研修会
　日程は令和8年8月2日(日)、場所は児童発達支援事業所「めぶキッド」(渋川市中村337番地1)を予定している。福利厚生部と進める。内容は、参加親子各々の宿題、工作、ポスター作成などやりたいことを自由に進めつつ、OTの親が気軽に参加できるように企画している。講師として、Sono.さん(アーティスト。民間児童放課後サポートこ.ラボ支援員)をお迎えして、作品系の宿題についてアドバイスを頂く。

【審議事項】　なし

4.広報部　[担当:都丸　部長 土岐]

【報告事項】

1)公益事業グループ(グループ長:中澤)
①5月に部会を開催し今年度の広報活動について協議する予定。またノベルティグッズの作成についても検討していく予定。
2)ニュース編集グループ(グループ長:大脇)
①県士会ニュース4月号が完成し、現在7月号の準備中。ニュース記事や表紙のイラスト募集中。掲載記事等がある場合には、6月26日までに下記アドレス宛にデータの送付をお願いしたい。daxiezongya@gmail.com
3)広報企画グループ(グループ長:金子)
①公益事業Gと合同で活動実施。　各部と情報を共有し必要な外部情報の収集とまとめを行う。
②ノベルティの情報収集を行う。ノベルティ(ボトルオープナー)の作成に向けて、見積もりと購入を進めていく。

【審議事項】　なし

5.司法領域の作業療法について[担当:小林、都丸]

【報告事項】

1)第1回3.30に実施。第2回4.27実施。第3回5.20実施。(小林・都丸)
　13:00～15:00
　13:00～13:30ミーティング
　13:30～14:30介入(ボッチャ・面談)
　　(鬼石・腰痛・肩こり体操)
　14:30～15:00カンファレンス
2)来月以降、他メンバーへの引継ぎを予定。

【審議事項】　なし

6.学術部　[担当:李・吉岡　部長:近藤]

【報告事項】

1)学術研究グループ(佐藤グループ長)
①第28回群馬県作業療法学会の演題募集を開始し、査読を開始している。

②令和8年度の学術活動支援企画の勉強会の案内を送付した。
2）学会支援グループ（秋山グループ長）
①4月28日に第28回県学会の第二回実行委員会が開催された。関連業務の進捗状況ならびに今後の方針について確認を行った。
3）機関誌編集グループ（柳井グループ長）
①今年度の機関紙『ぐんま作業療法研究』に掲載予定の4編の論文について査読を完了した。また、巻頭言についても既に執筆を依頼している。
【審議事項】 なし

7. 運転と作業療法特設委員会 ［担当：李］
【報告事項】 なし
【審議事項】 なし

8. 福祉用具委員会 ［担当：石森］
【報告事項】
1）福祉用具相談支援システムおよび生活行為工夫情報事業の県士会員登録状況
令和8年5月19日時点において、福祉用具相談支援システムの登録者数は79件、相談件数は5件。生活行為工夫情報事業は3件であった。
2）介護現場における生産性向上に関するアンケートについて
厚生労働省の方で、介護現場の生産性向上（介護福祉士を働きやすくする、人材確保etc）を目的に、「生産性向上に関連した介護テクノロジーを活用した人材確保および環境改善の取組事業」として、「介護生産性向上センター」を各都道府県に数年前より設置し始めており、群馬県では、「介護職場サポートセンターぐんま」として設置された。現状の「介護職場サポートセンターぐんま」との連携に関するアンケート調査の依頼が日本作業療法士協会より回答した。
【審議事項】 なし

9. 養成校連絡協議会 ［担当：高坂、小林、木村］
【報告事項】
1）第1回養成校連絡協議会会議を実施。（5/14）
①事業計画、具体的事業について検討。
②次年度も学生事業アンケート継続。調査結果のフィードバックは検討継続する。
③新年度学生会員の募集や管理について確認。
④県学会において学生交流会の実施検討・ボランティア派遣の検討。
⑤2026年度臨床実習指導者講習会開催9/12・13（前橋医療福祉専門学校）
資料代金：500円（昨年度1000円）
【審議事項】 なし

10. 地域局 ［担当：柴田・今村・小此木・山浦］
【報告事項】
1）各所報告
①北中毛ブロック
・主任者交流会に向けて案内などの準備を行なっている。
②東毛ブロック
・報告事項なし
③西毛ブロック
・第28回群馬県作業療法学会開催に向けて準備を進めている。
・地域包括ケアフェスティバルin高崎が今年も開催される。今年度、士会としては資料配布という形で参加する予定。
④全体
・第28回群馬県作業療法学会において、主任者交流会を企画予定。今後内容について検討していく。
【審議事項】 なし

11. 福利厚生部［担当：小此木，設楽 部長 小田］
【報告事項】
1）リレーフォーライフ
10月10日、11日開催予定。今年度も参加予定。
日本作業療法士協会からのパンフレット等配布していく。
2）県士会オリエンテーション
新人症例発表会にて、各部の紹介PowerPointをスライドショーにて対応していく。
各部の紹介スライドに変更予定。スライドに変更がある場合は6月中に提出をお願いしたい。
3）表彰関係
新人症例発表会、県学会の優秀演題賞を進めていく。
【審議事項】 なし

12. 地域作業療法推進部 ［担当：高坂、吉岡］
【報告事項】
1）地域包括ケア推進グループ（山口グループ長）
①4月16日（木）第1回グループ会議を開催した。
②4月1日（水）「令和8年度群馬県地域医療介護総合確保基金事業費補助金」が採択された。
2）認知症支援推進グループ（笹谷グループ長）
①令和8年4月20日付で「群馬県地域医療介護総合確保基金事業費補助金」に係る資料の提出を行った。
②4月26日（日） 家族の会のつどい グループ員笹谷が参加した。
③5月12日（火）第1回グループ会議を実施した。
3）精神科領域推進グループ（米原グループ長）
①4月15日（水）第1回グループ会議を開催した。
②4月28日（火）第1回地域イベント参加担当者会議を開催した。
4）発達支援推進グループ（吉岡理事）
①2名退部、1名休部、6名入部となった。
②4月19日（日）幹部会議を開催し、佐藤地域作業療法推進部部長、吉岡理事、柳井理事、吉澤、塩ノ谷、六本木が参加した。
③5月20日（水）部員全体会議を予定している。
④今後、以下の研修会を予定している。
5月25日（月）19:30～第1回定期勉強会『外部専門家派遣事業説明会』
【審議事項】
1）発達支援推進グループ（吉岡理事）

外部専門家派遣事業における同行研修について講師派遣の際にも同行研修を実施したい。講師依頼は例年数件あり、対応可能な人材を育成する必要がある。研修会の講師、同行するOTへの謝金支払いの可否について審議する。
審議結果：研修会の講師、同行するOTへ謝金を支払うことについて承認された。該当する研修会を明確化した上で、同行者の条件、謝金の回数、謝金金額、単年事業とするかについては引き続き検討し、理事会で審議する。

13. 事務局　［担当：長谷川・石森］

【報告・連絡事項】

1）昨年度会費未納者数
　昨年度会費未納者数：64名
　※会費納入システムの導入については本年度事務局で検討予定

2）総会に関して
　日時：2026年6月28日10：30～11：30（受付開始10：00）
　※会場準備9：30～（理事で可能な方）
　会場：てんぼくホール 公益財団法人脳血管研究所
　　〒 372-0048群馬県伊勢崎市大手町1－1
　当日の欠席について：総会当日欠席される方は事前に事務局まで連絡のこと
　総会終了後打ち合わせあり（出席者：理事）

3）退会手続きについて
　HP上でフォーム入力による対応の整備を行う予定。試験運用は実施済み
　実施時期：6月中に整備

4）OT協会からの連絡事項（メタバースの利用）
　・日本作業療法士協会よりメタバースプラットフォーム「OT Meta PLACE」に関する案内あり
　・試験運用期間（～2027年3月31日）中は無料で利用可能
　・継続的な管理運営方法や人的負担、将来的なコスト等については現時点で不明な部分あり
　・事務局としては、協会の新たな取り組みとして理解しつつも、現段階で県士会として本格参画が必要かについては今後理事会のなかでも慎重に検討したい

【検討事項】（本日は議題提起）

1）会員名簿の内容の改訂および取り扱いについて
①現行の会員名簿（紙媒体）の課題
　・個人情報に関する懸念／掲載拒否の申し出（オプトアウト）
　・異動による情報の更新管理に課題
　・協会の強制退会に伴う、会員資格の消失等の確認の煩雑さ
　・施設代表者の変更、施設メールアドレスの情報更新に問題（メール不備）
　＊年1回配布だと、情報の鮮度が十分に間に合わず、使えないものとなりうる
　＊紙名簿の遺失、紛失の場合に回復は不可能（近年懸念される声も多い）
②紙媒体での名簿の配布目的
　会員間連絡（電話、メールアドレス）
　※自宅会員については連絡先の掲載なし。
③掲載に関する現行運用について
　・個人名掲載については拒否の申し出があった場合に限り、「自宅会員扱い」とする
　・一方、掲載方法の方針（オプトイン、オプトアウト）について検討はしていない
④検討事案
（1）現状のままでの名簿を発行するか（紙媒体での名簿発行の継続の可否）
（2）希望者に限り名簿を発行する（名簿の発行範囲の限定の可否）
（3）名簿の掲載内容を簡略する（名簿の掲載範囲の限定：施設名、住所、連絡先のみの掲載の可否）
（4）「（3）」の補完として会員間の連絡についてはBAND等のコミュニケーションツールの導入が実装可能か検討する。
※事務局としては会員間連絡の利便性は維持したい。
　紙媒体の継続については、冒頭に述べた課題が看過できなくなってきている事情がある
　本件については、次回以降の理事会で継続協議としたい。

2）施設代表者・施設連絡窓口情報の必要性について
①背景
　・2025年以降、群馬県作業療法士会では、会員個人メールアドレスへの情報配信を基本として運用している。
　・一方で以下のような場面において、施設単位での連絡・情報共有の必要性がみられている。
（1）地域局・ブロック支部、地域事業に関する連絡
（2）調査等の施設向け調査依頼
（3）管理者向け周知事項
②現状の課題
個人メール配信を基本とする現在の運用には利点がある一方で、施設単位での情報共有が必要な場面において、以下のような課題が生じる場合がある。
　・施設代表者・連絡窓口のメールアドレスの更新が止まっている
　・異動等により連絡先が不明となる場合がある
③検討事案
これらを踏まえ、今後、上記の連絡必要時に活用する「施設連絡窓口情報」を整備していく必要性があるかについて、ご意見を伺いたい。
検討内容のまとめ
　・施設連絡窓口情報を整備リスト化する必要性は？
　・窓口担当者情報（メールアドレス）を会員名簿に掲載する必要があるか？
　・情報の整備について地域局・ブロック支部の活動として、取り扱うことは可能か？
　・情報更新の方法を事務局と地域局で検討？
※県士会として施設単位のつながりをどこまで求めるかという点で事務局としては悩んでいる。県士会の活動が施設単位から個別の会員による活動に移っているのが現状。
※本格的な調査目的であれば、メールのみではなく公式文書による依頼が適切
※各地域事業、主任者会議等のお知らせについては施設連絡窓口情報があったほうが良い
※各地域ブロックでの連絡網としてブロック単位で把握することが望ましい

※連絡先の情報更新の方法については具体的に未定
※本件については事務局、ブロック長との協議を継続する方向

14.40周年式典実行委員会［担当：長谷川・石森］

【報告事項】

1）40周年記念式典事業内容について
実施内容の骨子
①リーフレットの作成：A3両面　カラー（後述）
　寄稿：日本作業療法士協会　山本会長、
　　群馬県医務課長　大熊様
②県士会ニュース特設記事（40周年に関係する記事）の連載
③記念品ノベルティグッズの作成、関係各所への配布
④群馬県作業療法士会の方向性や価値を対外的・対内的に共有できる「コンセプトメッセージ」の策定
〈コンセプトメッセージ策定に関する背景〉
・ロゴマークはある。（前々回の年記念式典時に公開）
・団体の顔になるメッセージやコピーを持つ県士会は多い（別紙）
・GAOTではこのようなコピーなどはない
・40周年という節目の年に、団体の顔となっていく言葉を会員とともに作り上げていくプロセスを経て、団体への帰属意識やつながりを深めていくきっかけの一つとしたい。
・コンセプトメッセージの最終的な決定機関は理事会
審議事項：上記内容にて事業を進めていくことが決定した。

15.財務部　［担当：高橋・小林］

【報告事項】

1）総会に向けて
　①来年度予算案について
　②決算書の提出について
　③その他
　会費引き落としできない会員への対応
【審議事項】　なし

16.MTDLP推進委員会　［担当：池田］

【報告事項】

4/24 リモートで会議を実施。
1）昨年度の全国推進会議報告(佐藤)
2）今年度の予定
①MTDLP基礎研修
　7月12日(日)　会場は群馬大学保健学科大学院講義室
②MTDLP実践者研修
　10月～11月頃案内し、12月～3月の間に2～3回実施する。
3）その他
＊推進委員について、募集していく
＊相談窓口の案内をしていく
【審議事項】　なし

17.災害対応委員会　［担当：設楽］

【報告事項】　なし
【審議事項】　なし

18.第28回群馬県作業療法学会［担当：吉岡、山浦］

【報告事項】

1）3月24日、4月3日、4月28日に学会役員会議を行った。
2）ビエント高崎（会議室）をサブ会場として予約した。なお、ビエント高崎では、フリーブースとしての出展募集を士会各部局や県士会員、関連企業に対して今後行っていく。
3）学会開催に向けて、実行委員を中心に準備を進めている。
4）講師への公文書発送の手続きを事務局へ依頼した。
5）群馬県、高崎市に後援依頼を行う予定。
6）5月26日、第2回実行委員会を開催予定。
【審議事項】　なし

19.第29回 群馬県作業療法学会 北関東信越学会

【報告事項】

　2028年9月11日（土）12（日）　2日間
　学会長　今村雄二
　実行委員長
　事務局長
テーマ「生き残れる？作業療法士」
副題：生涯教育システムの改変・政界の再編等激動する時代、変遷してくる需要に対し資格を持っていることだけではなく、社会に必要とされるべき作業療法士とは？周囲からはどのようにみられているか？社会・地域で「信頼」を得られる作業療法士とは何か？を考えられる機会としたい。作業療法士としての職域を広げてくれる先行事例。
想定概要
1日目　群馬県作業療法士向け
　ケアマネ協会・施設協会など周辺からどう見られているのかを振り返る
　主任者同士の交流の場を提供し作業療法士同士のつながりの場も提供。
　就活ブースなど学生と臨床作業療法士との接点
　地域の中で地域包括支援センターなどを入れたワークショップ、
2日目　日本作業療法協会の方向性を共有できる講師
　市民公開講座
　一般演題
10回北関東信越学会
「再考・最高・さぁ行こう 作業療法の可能性」
28回学会　架け橋
　―みんなのせいかつと参加をつなごう―
【審議事項】　なし

20.その他

　なし

次回理事会予定と開催形式
7月23日(木)19:00～　WEBで実施する。

施設紹介

サンピエール病院

○地域の特色

サンピエール病院が位置する高崎市は、群馬県の中核都市として利便性が高く、交通網が整備されている一方で、豊かな自然環境にも恵まれ、医療・福祉資源が充実した地域です。高齢化の進行に伴い、医療機関と地域資源の連携が重要となってくる中で、当院がなくてはならない病院であり続ける事が重要と考えています。

○施設概要

多様化するニーズに応え、当院は精神科医療のみならず、整形外科・内科・循環器内科・耳鼻咽喉科・消化器科・眼科・皮膚科・泌尿器科・歯科口腔外科など、幅広い診療機能を備えた病床数522床の大型総合病院です。精神科と他科との連携医療により、患者様一人ひとりの回復過程と地域生活への移行を見据えた支援ができ、精神科では急性期から、慢性期まで幅広い疾患に対応しています。病室からは、赤城、榛名、妙義の上毛三山や、浅間、谷川といった上信越国境の山並みが一望でき、屋上庭園からの眺めも絶景です。安心して療養出来る環境の中で、個々の状態に応じたきめ細やかな医療・ケアを提供しています。

○取り組んでいること

現在PT7名、OT14名、ST1名のリハスタッフが在籍しています。

精神領域の専門性を活かし、入院中の患者様へ手工芸や運動、音楽といった作業活動を行う集団作業療法を主としていますが、「地域移行」「地域定着支援」が強く打ち出されている現在の精神医療では、長期入院中心から退院後の生活を見据えた支援が重視されています。それに伴い、当院OTは地域でその人らしく生活できるよう、個別支援・退院支援に力を注いでいます。Drを始め他職種と連携し、退院を目指す患者様に対して、家事や買い物訓練・金銭管理・心理教育・グループホームやデイケアの見学・外泊訓練など、患者様の生活に直結した支援の内容は多岐にわたります。

また、近隣の公民館に出向き、地域で暮らしている方と一緒に体操や脳トレを行うなど、地域との深い関わりも重視しています。

加えて、精神疾患を有する方への身体的リハビリテーションにも積極的に取り組んでおり、PTによる早期からの身体リハが終了した後も、PT・OT・Ns等が集うリハビリカンファレンスを通して職種連携を密に取り、精神療養病棟においてもOTが継続して身体面へのアプローチを実践しています。

職種連携を大切にし、協働しながら包括的なチーム医療を実践しています。今後も、患者様ファーストのケアを継続していけるよう職員一同努めてまいります。

40周年記念事業がスタートします！

1985年（昭和60年）創立。昨年度、創立40周年を迎えました。
その節目を記念し、本年度は40周年記念事業を実施します。

① 40周年記念リーフレットの作成

これまでの歩みや
これからの想いを
リーフレットにまとめます。

② 県士会ニュースでの特別記事掲載

40周年を記念した
特別記事を、県士会ニュースで
お届けします。

③ 40周年の感謝の気持ちを伝えます

これまで支えてくれた
他団体の皆様に
ノベルティをお届けします。

④ コンセプトメッセージの策定

私たちの想いを言葉にします。
会員参加型のコンセプトメッセージ
（キャッチフレーズ）策定プロジェクトです。

会員の皆様には、今年1年を通じて
さまざまな情報をお届けしてまいります！

群馬県作業療法士会創立40周年記念事業実行委員会

群馬県作業療法士会創立40周年記念事業　特別掲載

「それでも、つながっている」

― 群馬県作業療法士会40周年によせて ―

群馬県作業療法士会創立40周年記念事業実行委員会
長谷川明洋

群馬県作業療法士会は1985年に創立され、昨年度、創立40周年の節目を迎えました。その節目を記念し、本年度は40周年記念事業を行います。記念事業をどのような形にしたらよいのか、私たちは、記念式典という形を含め、さまざまな議論を重ねてきました。振り返ってみると25周年でも30周年においても、記念式典を開催してきた経緯があります。

”式典”はハレの日で非日常的です。

緊張感をまとった会場。

きれいに並んだ椅子。

ミリ単位で調整される式次第、垂れ幕と席札。

おそらく誰にも気づかれることはない…。それでも、そこに全力が注がれている。

インカムを持つと急にプロっぽくなるフロアスタッフ。

なぜか、絶妙に口元から外れて音を拾わないマイク。焦る音響係。

開始5分前、「来賓の〇〇様、まだ到着されていません」という静かで深刻な報告。

一気に青ざめる運営側。

突然の進行変更をアドリブで乗り切れと言われ、吐きそうになる司会。

駐車場係だけは朝から妙に元気で、ちょっと気味悪がられて、いとおかし。

たぶんレッドブル飲みすぎ。

張り詰めた空気と少しのノイズと興奮が混ざった独特の雰囲気が“、式典”を象徴的なものにしているようです。式典には大きな意義があります。節目を祝い、感謝を伝え、歴史を振り返る、大切な機会です。

私たち実行委員会はこの40周年記念と式典の在り方について時間をかけて話し合いを行いました。40年という時間は、決して誰か一人の物語ではありません。人知れず県士会の活動を支えてくださった多くの方々がいました。表には見えなくても、誰かが担ってくれたたくさんの役割がありました。会員の皆さまの日々の実践、地域での地道な活動、そして多くの関連団体や関係者の皆さまからの支え。そうした一つひとつの積み重ねの中で、群馬県作業療法士会は歩みを続けてきました。

だからこそ、この40周年記念は、「過去を振り返る1日だけの式典」ではなく、1年間を通して、感謝を伝え、そしてこれからの私たちを知っていただく機会にしたいと考えました。

「支えてくださった皆さまへ、心からの感謝を。」

「そしてこれからの私たちを、どうか温かく見守ってください。」

そうした気持ちを1年間通じて皆様と分かち合うことができれば幸いです。事業の内容は県士会ニュースやHPなどでも発信していきます。ぜひご覧になっていただきたいと思います。

―40年を振り返る―、言葉にすると簡単ですが、40年という時間は結構長い。私がダンゴムシの瓶詰作業に明け暮れていた無垢な少年に戻るくらいには長い。まだこの世に生まれていない人、幼少時代を過ごした人、青春時代を過ごした人、それぞれです。そう考えると、「40年を振り返る」と言っても、実は同じ40年を見ているわけではありません。

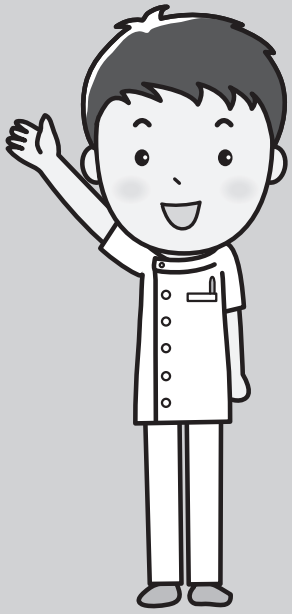
過去の先輩たちが何を考え、どのような思いで県士会を築いてきたのか。それを完全に理解することは、なかなか難しい。

それでも、ただ、一つ確かなことがあります。

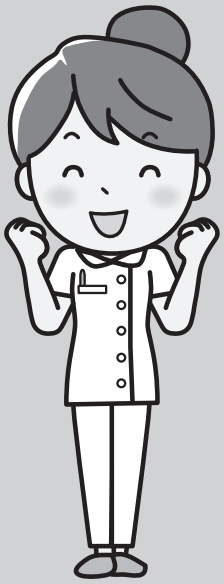
「40年前、誰かが始めた活動の延長線上に、今の私たちがいる」ということです。

そしてもう一つ確かなことがあります。
「今ここにいる私たちは、この先に何を残していくのかを考えることができる」ということです。
　過去から受け取り、今を生き、未来へ渡していく。
その連続性の中に県士会の活動があります。時には熱心に関わり、時には見守りながら、理由があって離れていった人たちもいます。それでも多くの人がつながり続けてきました。そうして紡がれてきた40年だったのだと思います。
　この40年。県士会の規模も変わり、多くの活動が行われてきました。その一つひとつをたどっていくと、結局は誰かの日常に行き着きます。
　初めて患者さんの前で緊張した日。
　うまく関われず、帰りの車で落ち込んだ日。
　忙しさの中で、「自分は何のために働いているんだろう」と立ち止まった日。
　それでも次の日には、また現場へ向かっていた、そんな一人ひとりの時間の積み重ねが、県士会の40年の歩みとなりました。県士会の歴史は、ありふれた作業療法士の日常の上に成り立っているのだと思います。人の悩みや孤独を、本当に分かち合うことは、簡単なことではありません。同じ作業療法士であっても、働く場所も、立場も、抱えているものも違います。
ある人には何でもないことが、別の誰かにとっては、立ち止まってしまうほど重いこともあります。だから私たちは、ときに分かり合えず、ときに言葉が足りず、ときに距離を感じながら、それでも日々を続けています。
　同じ気持ちになれなくても、寄り添い、気にかけること。
　必要なときに、少しの勇気を振り出して手を差し伸べること。
　どこかで緩やかにつながっていること。
　そのつながりがあるからこそ、人はその場にとどまり、また新しい一歩を踏み出していけるのかもしれません。これからどれほど社会が変わり、テクノロジーが発展したとしても、人が人を気にかけ、支え、緩やかにつながることの価値は変わらないのだと思いたい。時代に合わせながら、しなやかに形を変えながら、私たちはこれからも歩みを重ねていくのだと思います。
　そして願わくは、次の節目でも駐車場係は相変わらず元気であることを祈りながら。
　40周年記念事業が、これまでを振り返るだけでなく、皆様のこれからの未来を考えるきっかけになれば幸いです。

投稿大募集!!



ニュースでは、日頃感じている些細な疑問や
日常業務で工夫している点、こんな研修会に
参加した･･･などなど、皆様からの投稿を
募集しております。
どんなことでも構いませんので、
お気軽にお寄せ下さい。
お待ちしております!!



ニュース原稿の送付先

daxiezongya@gmail.com

県士会ホームページアドレス

http://www.gunma-ot.org/

編集後記

記事の依頼にご協力して頂いた先生方につきましてはご多忙の所ありがとうございました。
第28回群馬県作業療法士学会の準備中とのことで楽しみにしています。実行委員長の記事にもあるように「お酒を飲みながら語り合える学会」なんて実現したらいいなと感じております。
表紙のイラスト作品や記事の依頼等、何かあれば下記アドレスまでご相談・ご連絡お待ちしていますのでよろしくお願いいたします。　O

daxiezongya@gmail.com

群馬県作業療法士会ニュース

発 行 者 ‖ 新井　健五
発 行 所 ‖ 群馬県作業療法士会事務局　〒371-0024 前橋市紅雲町1丁目7番12号　TEL・FAX 027-224-4649
編集代表 ‖ 大脇 宗雅　編集委員 ‖ 関　仁紀、辻 千鶴子、白倉 研吾　印刷 ‖ 星野印刷株式会社